



I 第37週の発生動向 (2026/9/7~2026/9/13)

- 手足口病について、下北保健所管内で**警報**が継続しています。東津軽+青森市保健所管内、中南保健所管内及び三戸+八戸市保健所管内の**警報**は**解除**となりました。特に乳幼児が集団生活をしている施設等では、流水・石けんによる手洗いを徹底し、タオルの共用を避け、排泄物等を適切に処理するなど感染予防に努めましょう。
- 水痘について、下北保健所管内の**注意報**は**解除**となりました。
- 日頃から手洗いや咳エチケット等の基本的な感染対策をお願いします。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「結核」です。

最終ページに掲載しています。

II 第37週五類定点把握対象疾患

※記載データは、速報値です。

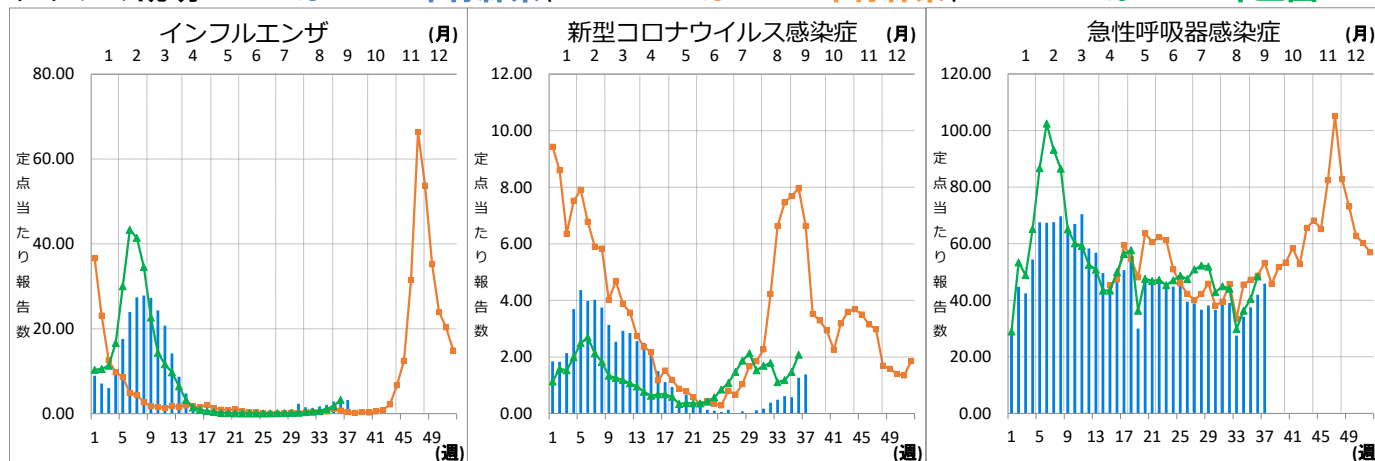
青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、**警報・注意報**については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

は警報、は注意報。「空欄」：患者報告無し。

		東青 (東津軽+ 青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+ 八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週 からの 増減
		数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	
急性 呼吸器 感染症	インフルエンザ	78	7.09	13	1.30	13	1.30	24	4.00	39	4.33	1	0.17	168	3.23	24
	新型コロナウイルス感染症	9	0.82	11	1.10	8	0.80	5	0.83	35	3.89	4	0.67	72	1.38	6
	急性呼吸器感染症	698	63.45	298	29.80	411	41.10	224	37.33	467	51.89	288	48.00	2386	45.88	204
小児科	RSウイルス感染症							2	0.40					2	0.06	-3
	咽頭結膜熱							1	0.20					1	0.03	-2
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	0.17	4	0.67	5	0.71			5	0.83			15	0.44	-5
	感染性胃腸炎	5	0.83	3	0.50	33	4.71	7	1.40					48	1.41	-3
	水痘					2	0.29					1	0.25	3	0.09	-2
	手足口病	10	1.67	4	0.67	8	1.14	1	0.20	2	0.33	8	2.00	33	0.97	-59
	伝染性紅斑															-2
	突発性発しん	3	0.50	4	0.67					1	0.17	1	0.25	9	0.26	5
	ヘルパンギーナ			2	0.33	9	1.29	8	1.60					19	0.56	-15
	流行性耳下腺炎			1	0.17									1	0.03	1
眼科	急性出血性結膜炎															0
	流行性角結膜炎			1	0.33			1	1.00					2	0.20	2
基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0
	クラミジア肺炎															0
	細菌性髄膜炎															0
	マイコプラズマ肺炎											3	3.00	3	0.50	2
	無菌性髄膜炎															0

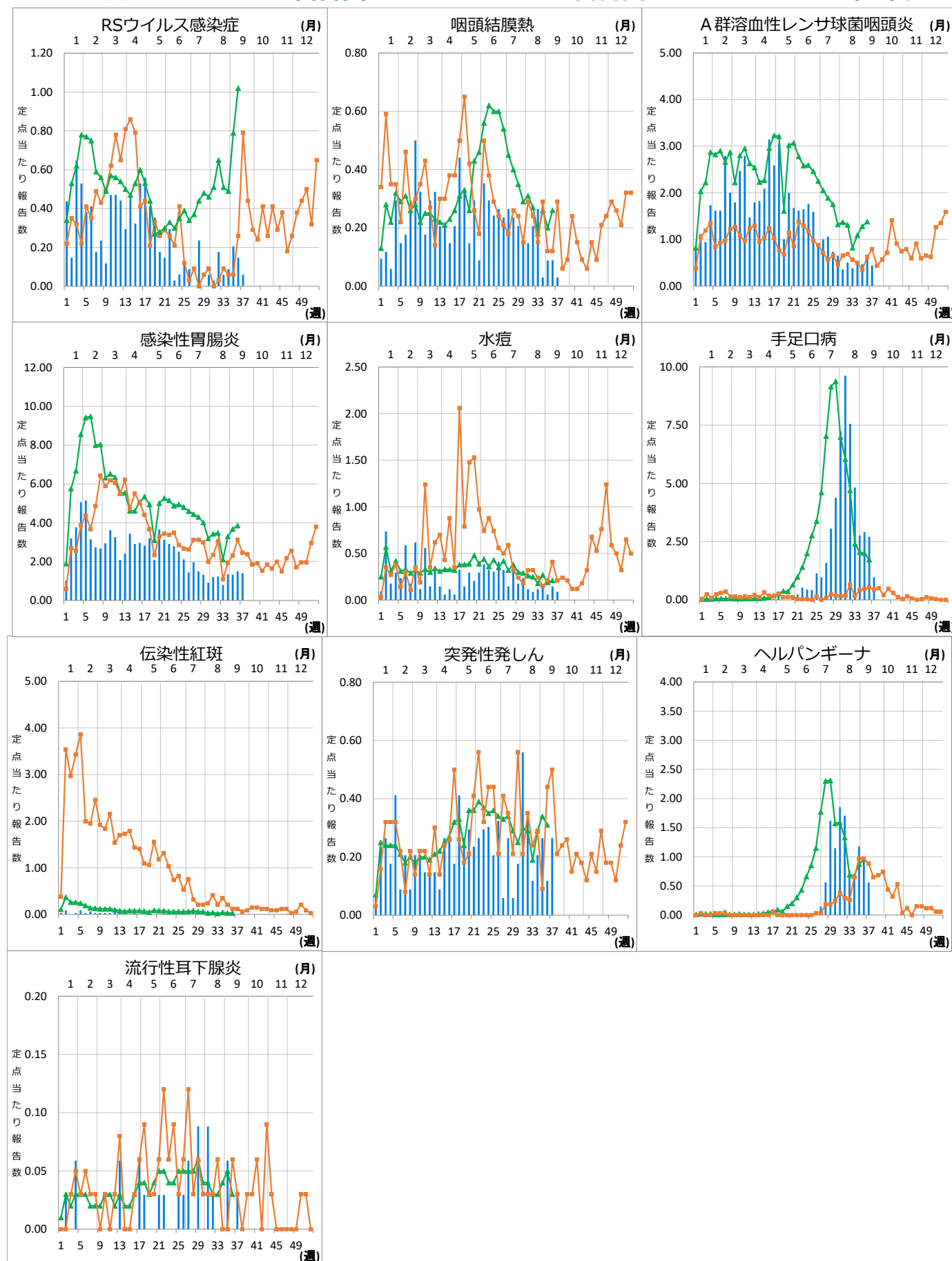
III 定点把握対象疾患週別推移 (急性呼吸器感染症定点) (2026年第37週、ただし全国は前週)

グラフの説明 は2026年青森県、 は2025年青森県、 は2026年全国



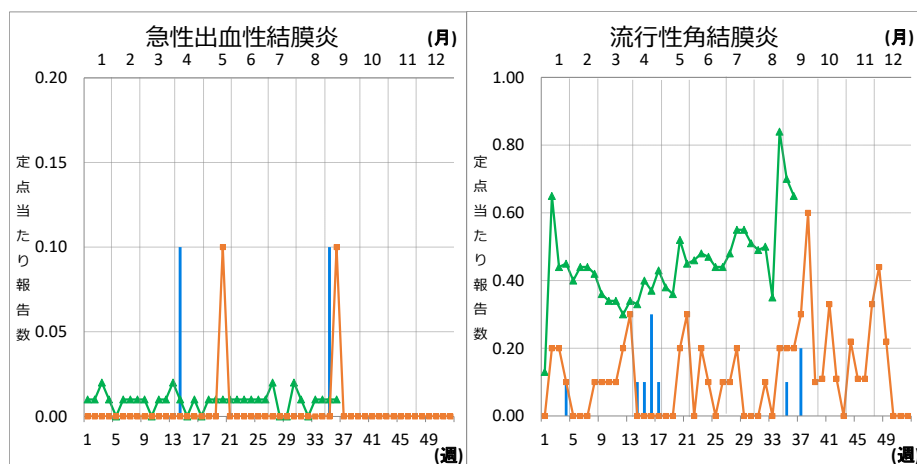
Ⅳ 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2026 年第 37 週、ただし全国は前週）

グラフの説明  は 2026 年青森県、 は 2025 年青森県、 は 2026 年全国



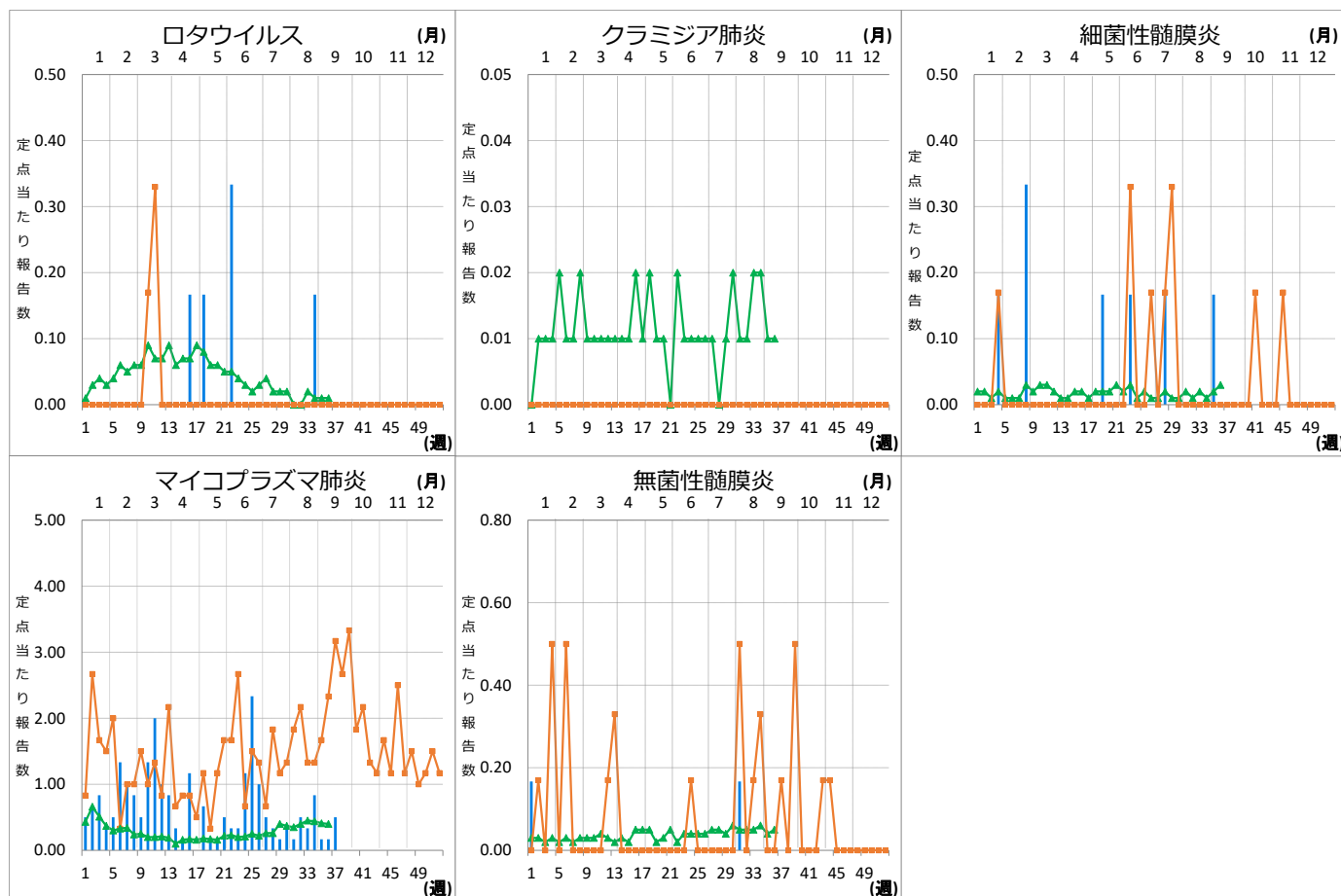
V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2026 年第 37 週、ただし全国は前週）

グラフの説明👉 —は 2026 年青森県、■—■は 2025 年青森県、▲—▲は 2026 年全国



VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2026 年第 37 週、ただし全国は前週）

グラフの説明👉 —は 2026 年青森県、■—■は 2025 年青森県、▲—▲は 2026 年全国



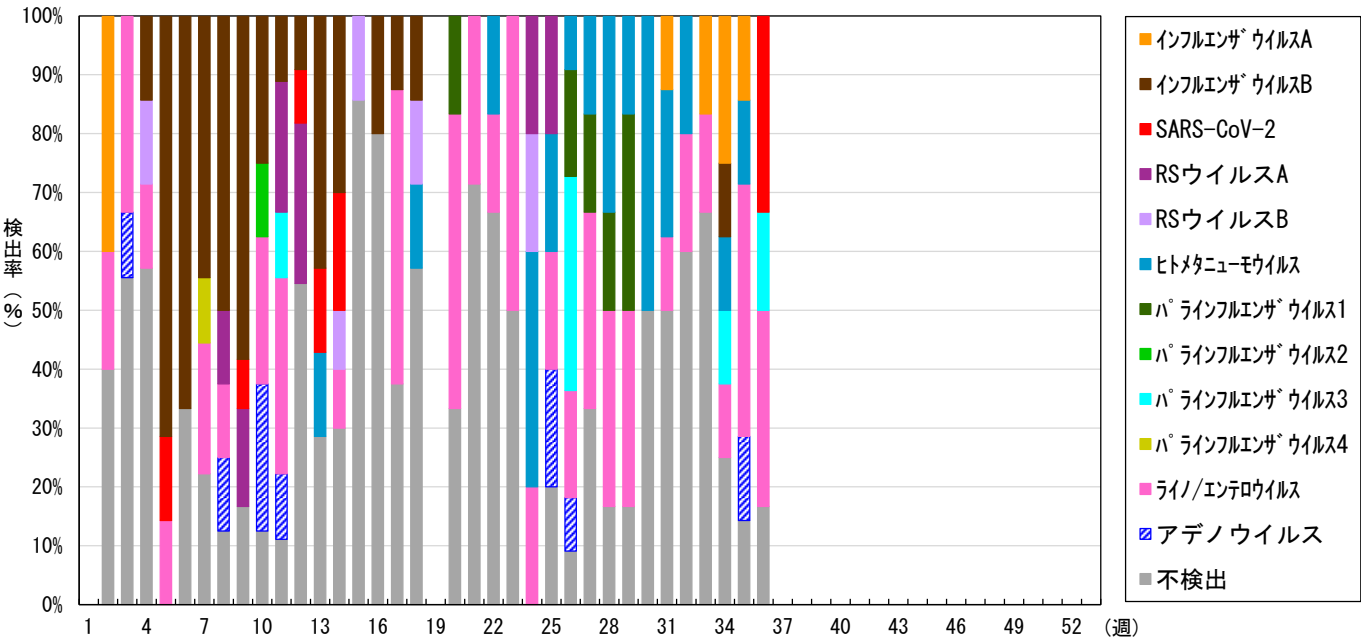
Ⅶ 急性呼吸器感染症(ARI)病原体検出情報

(1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2026 年第 30 週～37 週)

急性呼吸器感染症	2026年							
	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週
提出検体数	6	8	5	6	8	5	6	5
インフルエンザウイルスA	0	1	0	1	2	1	0	
インフルエンザウイルスB	0	0	0	0	1	0	0	
SARS-CoV-2	0	0	0	0	0	0	2	
RSウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルスB	0	0	0	0	0	0	0	
ヒトメタニューモウイルス	3	2	1	0	1	1	0	
パラインフルエンザウイルス1	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス2	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス3	0	0	0	0	1	0	1	
パラインフルエンザウイルス4	0	0	0	0	0	0	0	
ライノ/エンテロウイルス	0	1	1	1	1	3	2	
アデノウイルス	0	0	0	0	0	1	0	
不検出	3	4	3	4	2	1	1	
検査待ち	0	0	0	0	0	0	0	5

※第35週に採取された検体のうち、ライノ/エンテロウイルス及びアデノウイルスが重複して検出されたものが1検体、インフルエンザウイルスA及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

(2) 検出された病原体の週別推移 (2026 年第 1 週～36 週)



Ⅷ 全数把握対象疾患発生状況（第 37 週）

- ・結核（二類感染症）：青森市 1 人、上北 1 人（2026 年計： 75 人）
- ・腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）：青森市 1 人（2026 年計： 39 人）
- ・レジオネラ症（四類感染症）：青森市 1 人（2026 年計： 7 人）

Ⅸ 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2026 年第 34 週～2026 年第 37 週）

週	東青 （東津軽保健所+ 青森市保健所）	中南 （中南保健所）	三八 （三戸保健所+ 八戸市保健所）	西北 （西北保健所）	上北 （上北保健所）	下北 （下北保健所）
34		腸管出血性大腸菌感染症1人 レジオネラ症1人 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症1人 百日咳1人	レジオネラ症2人 侵襲性肺炎球菌感染症1人		結核1人 腸管出血性大腸菌感染症1人 アメーバ赤痢1人	結核2人
35	結核1人	腸管出血性大腸菌感染症2人 侵襲性インフルエンザ菌感染症1人 百日咳2人	結核1人 腸管出血性大腸菌感染症1人		梅毒1人	腸管出血性大腸菌感染症6人
36	劇症型溶血性レンサ球菌感染症1人	結核1人 腸管出血性大腸菌感染症1人 侵襲性髄膜炎菌感染症1人 梅毒1人 破傷風1人	後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）1人 梅毒2人			結核1人 腸管出血性大腸菌感染症1人
37	結核1人 腸管出血性大腸菌感染症1人 レジオネラ症1人				結核1人	

第 36 週に中南保健所管内で破傷風の届出が 1 件、八戸市保健所管内で後天性免疫不全症候群（HIV 感染症を含む）の届出が 1 件、梅毒の届出が 1 件ありましたので追記しました。

X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国（2026年第1週～第36週までの累計）										
分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокクス症	エムポックス
累積報告数	10129	1	51	2910	26	14	462	278	16	123
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	オウム病	回帰熱	コクシジオイデス症	ジカウイルス感染症	重症熱性血小板減少症候群	ダニ媒介脳炎	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱
累積報告数	5	4	6	2	138	1	4	63	83	354
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類
疾病名	日本脳炎	ブルセラ症	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症
累積報告数	2	1	33	4	1	1741	8	345	146	682
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症
累積報告数	17	349	6	111	902	640	29	405	41	1938
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	水痘（入院例）	多剤耐性緑膿菌感染症	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症
累積報告数	611	165	7934	120	75	54	4273	4	552	10

青森県（2026年第1週～第37週までの累計）

分類	二類	三類	三類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	A型肝炎	つつが虫病	レジオネラ症	アメーバ赤痢	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症
累積報告数	75	2	39	3	3	7	2	7	3	11
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	
疾病名	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	百日咳	
累積報告数	2	7	1	16	7	17	1	1	29	

XI 病原体検出情報

報告はありませんでした。

Ⅺ 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2026 年第 37 週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第37週	報告なし		

2026 年報告件数及び発症者数

月(週)		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月				10月	11月	12月	計
施設種別		1-5週	6-9週	10-13週	14-17週	18-22週	23-26週	27-31週	32-35週	36週	37週	38週	39週	40-44週	45-48週	49-52週	(施設別)
介護・老人福祉関係施設	件数	2	2	6	2	3	0	0	0	0	0						15
	発症者数	37	44	69	23	42	0	0	0	0	0						215
児童・婦人関係施設等	件数	4	0	1	3	4	1	0	0	0	0						13
	発症者数	92	0	30	73	63	10	0	0	0	0						268
障がい関係施設	件数	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0						2
	発症者数	20	0	18	0	0	0	0	0	0	0						38
その他施設	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0
	発症者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0
計(月別)	件数	7	2	8	5	7	1	0	0	0							30
	発症者数	149	44	117	96	105	10	0	0	0							521

感染症の窓

結核

9 月 24 日～30 日は結核・呼吸器感染症予防週間です

結核は、結核菌によって発生する、日本の主要な感染症のひとつです。毎年新たに約 10,000 人の患者が発生し、1,400 人以上が命を落としています。

国内の新登録結核患者のおよそ 6 割が 60 歳以上の高齢者となっています。また、外国生まれの患者の割合が増加しており、20～29 歳の新登録結核患者の 9 割を占めています。

結核の症状（咳、たん、微熱、体のだるさなど）は、初期には風邪症状とよく似ているため、気付かないうちに進行してしまうことがあります。咳・たんが 2 週間以上続いたり、微熱や体のだるさが続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。高齢の方は咳症状が分かりにくいことがあるので注意してください。

結核の早期発見・早期診断のためには、定期的な健康診断が大切です。重症化や感染拡大を防止するため、年 1 回胸部エックス線検査を受けましょう。また、不安なことがあれば最寄りの保健所にご相談ください。

結核や呼吸器感染症を予防するため、マスク着用を含む咳エチケット、手洗い、換気等の基本的な感染対策のほか、十分な睡眠やバランスのとれた食事、適度な運動など健康的な生活を心がけましょう。

○詳しい情報はこちらをご覧ください。
👉 [結核\(厚生労働省 HP\)](#)



出典：公益財団法人結核予防会 普及啓発ポスター